
神様HELP!! or HELL?

猫又木三太夫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神様HELP!! or HELL?

【Nコード】

N6303Z

【作者名】

猫又木三太夫

【あらすじ】

異世界に召喚されたクソ生意気JKが、似非巫女として召喚したのはヲタ青年でした。勇者召喚した筈なのに、ヲタ青年即死亡。と思ったら、即復活。しかし、中身は別の異世界の神様でした。というお話。

第 話 【サブタイトル】

side;

という形式で進行し

ています。

もっと良いやり方があれば、アドバイスパーズです。

sideシステム習作です。

習作ですので、アドバイスなど頂けると有難いです。

プロローグ 【神様の独り言】（前書き）

習作投下開始です。

割りと短時間で書いてます。

誤字脱字他、アドバイスなどありましたら、宜しくご指導ください。

プロローグ 【神様の独り言】

吾輩は神である。
名前はもう無い。

とか、何処かのフレーズをインスパイア。

神というのは、本当。マジデmjd。

司る世界は既に自ら滅び、祈りを捧げる民も無い。『名前』を失い、
『存在』も失った。

つーわけで、ぶっちゃけヒマである。

おや？ 妙な言語化思考。

自己認識出来るという事は、何処かと接続チャネルしたかな？

「誰か・・・誰か助けて・・・神様・・・」

お。呼ばれてるばい。

どうせヒマだし、行ってみるかな・・・

第一話 【異世界召喚】 side・巫女？

「もうコイツ最悪マジサイテー！」

ワタシは思わず叫んでしまった。

目の前には冴えないヒョロ男が死んでます。

ワタシ、現在マジピンチ。

勇者召喚とかマジ無理だったさ。

ヤバレベルMAXの魔竜山脈の祭壇まで、ムリクリ引っ張って来られて、「勇者召喚しろ」とかフザケンナ。

しかも魔王軍にバレてるとか、アリエナイっしょ。

ドラゴンとか強さMAXな連中に襲撃されて、騎士団全滅寸前。

どうにか勇者召喚成功！とか思ったら、速攻即死とかマジカンベンしてくれる？

あゝあ。短い人生だったな〜。

『巫女様』とか祭り上げられて調子乗ってたからバチ当たったかな〜。

処女のまんま死んじゃうのか〜。

クッソ〜。恋くらいしたかったぞ。コンチクショ〜。

(ふむ。それがお前の願いか？)

え？なに？今の声。

(俺か？俺は神様だよ)

やべえ。ワタシ、テンパって幻聴とか聞こえてるよ。

(何故、幻聴だと思う？お前は巫女だろう？)

いや、ワタシってばナンチャッテエセ非巫女だし、神様とチャネリング接続とかできないうし、って何ワタシ幻聴と会話してんの。

(フハハ。面白いな、お前)

ほっとけ！コッチはマジピンチなんだから、幻聴の相手してるヒマなんか無いっつーの。

(助けてやるっか?)

え?

(助けてやるっか?と言った)

え? マジで?!

第一話 【異世界召喚】 side：神様？

呼ばれた感じに引つ張られて来て見れば、そこは地獄絵図。
金属鎧を身に付けた騎士団と異形の魔王軍が戦っているが、どう見ても騎士団全滅寸前。

下等種とはいえドラゴンまでいるのか。

これはもうダメジャンよ。

マジ無理ゲー。

むう。言語化思考が安定しないな。

さて、我を呼んだのは誰だろうか。

ふむ。ストーンサークル 円環石柱群の祭壇の中央で震えている少女か？

(……速攻即死とかマジカンベンしてくれる？

あゝあ。短い人生だったな。

『巫女様』とか祭り上げられて調子乗ってたからバチ当たったかな。
。

処女のまんま死んじゃうのか。

クツソ。恋くらいしたかったぞ。コンチクショ)

ふむ……見た目は可憐な乙女といった風情なのだがなあ。

目の前で死んでいる人間がいるというのに、自分の事しか考えていないとは……。

そもそも、その死の原因は、己にあるのではないか？

この娘の思考に引つ張られないようにしなければ。

しかし、この安定した思考の主は……。

おや？

第一話 【異世界召喚】 side・ピヨ口男？

参った。

本屋の帰りにピカツと光つて、山の上に来たと思ったら、ビリツときて、気がつけば幽体離脱状態とは。

気が付いたら足元に身体あるし、自分見たら透けてるし。やっぱり死んでいるよなあ。プスプス煙出てるし。

これはアレだな。

所謂、異世界召喚ってヤツ。

周りで戦っている人達も、ファンタジーっぽい鎧姿の外人だし。なんか魔物っぽいのと戦ってるし。

デカイドラゴンまでいるし。

さっきからピカツとかゴオツとか魔法っぽい飛び交ってるし。

で、俺は召喚されたところを、サンダー雷撃魔法とかで狙い撃たれて死亡、と。

うーむ。冷静に状況分析とかしてしまった。

やっぱり現実感ないんだよなあ。

見た感じ、ただの（？）幽体離脱っぽいし。

あ。さようなら〜。

周りで戦っている騎士さん達がどんどん死んじゃってるんだけど、次から次へと光になって昇天しているので、手を振って見送ってみました。

魔法とかあるなら、蘇生魔法とかないのかな？

まあ、ないっぽいけど。
死亡即昇天っぽい。

目の前でバタバタ死んでいる騎士さん達も、死亡したらアツサリ昇天してるしな。

俺も昇天するのかなあ。

なんか、そんな感じが全然しないんだけど。
地縛霊とか浮遊霊とかは、嫌だなあ。

だいたい、こういうのって勇者召喚とかだよな？

だったら、チートのなアレとかコレな超パワーとか無かったのかね？
喚ばれて、すぐ死亡ってクソゲー過ぎだよ……。

スペンカー並に。

まあ、アレはアレで伝説だけど。

現実逃避してる場合じゃないか。

あと、さつきから気になってるんだけど、目の前で怯えてる女の子が居るんだよね。

俺の死体に怯えてるって訳じゃなさそうだけど。

まあ、どう見ても絶対絶命な状況だし、仕方ないよねえ。

この子が俺を召喚したのかな？

なんとなくだけど、他の外人さん達とは全然違う感じがする。

お？ この子、日本人っぽいな。髪も黒いし。

顔もバツチリ日本人顔だし。

割と可愛いな。俺には縁がなさそうなタイプ。

うう。自分で言ってる落ち込みそうだ。

そもそも、なんで日本人の女の子が俺召喚？

うーむ。これからどうしたらいいのかな？

あれ？　なんかピカピカすごいモノが降りて（？）来た。

（我を呼んだのは、汝か？）

おお？！　なに？！

第一話 【異世界召喚】 side ; 神様

少女の傍らに佇む青年の靈魂を見つげ、声を掛けてみる。

(我を呼んだのは、汝か?)

(おお?! なに?!)

(助けを求める声に引かれて、我は来た)

(え?! 俺じゃない・・・と思います)

ふむ。強く引つ張られたのは、少女の方だったが、呼ばれた感じはこちらの様に思える。

それにしても、この青年のイメージする“神”というモノは、随分と大仰な話し方なのだ。

司る世界も祈る民も無い我は、姿も話し方も認識する者のイメージによって在り方を左右される。

この青年には、“神”の姿の具体的なイメージが無い為に、何だかピカピカ光るモノになったのだろう。

(汝は死の直前に、我を呼んだのではないか?)

(うーん。即死って感じなので、よく憶えてません)

(呼んだ記憶は無いか)

(はい。でも、苦し紛れに呼んだかもしれない。ビリビリが酷く苦しかったですから)

ふうむ。死の直前に青年に呼ばれ、我が気が付いたところに、少女チャネリングから接続されたといったところか。

(えっと、すみません。今更の確認ですけど・・・神様ですか?)

遠慮がちに訊いてくる青年の態度は、実に好感が持てる。

(うむ。我は、所謂神と呼ばれたモノだ)

(おお！神様キタコレ！)

青年は、妙なテンションで声をあげ、すぐに

(すいません)と謝った。

そして、意を決したように口を開いた。

(お願いがあります！)

(何だ？出来る事なら叶えてやろう)

(生き返らせてください！)

(無理だ)

(ええええええ？！)

青年は愕然としている。

希望を与えてから叩き落とすような真似をしてしまった。

ううむ。きちんと説明せねば。

(真に済まぬが、我は、この世界の神ではない。よって、此岸の事象に干渉する事は出来んだ)

(この世界の神ではない？)

(左様。我は、この世界とも汝の世界とも違う、既に滅びた世界の、名も無き神)

(ネームレス・ワン？)

(・・・？ よく判らぬが違うと思うぞ)

(すいません・・・)

(兎も角、今の我は、著しく能力は制限されているので、全知でも全能でもないのだ)

(この世界の神様は、何をしてるんですか?)

我は、存在的に”上の方“を見た。

(うむむ。 “神の座”には誰も居らぬ)

(おお! そしたら今のうちに・・・)

(”神の座”を篡奪さんだつするなど出来るか! そもそも居らぬだけで空位あきではない)

(ちよつと離席中あひくという感じですか?)

(多分、その様なものだろう)

(この世界の神が居れば、何とか成ったかもしれぬが・・・。 済まぬ)

(いえ。 そういう事情なら、仕方ないでしょう。 となると、これからどうしたらいいのかな)

(ふむむ。 汝の魂の有り様は、この世界のそれとは随分違うのでな(どうなります?))

(この世界の輪廻うまれかわり転生の輪には入れぬ)

(成仏出来ない・・・とか?)

(左様。 恐らく地縛霊になった後、自然の精霊達が時間を掛けて自然霊に分解していくのだろう)

(自然霊・・・ですか)

(うむ。 そしていずれば何者でもない遍在あまひろする精霊となるだろう)

(うむむ。 地縛霊から自然霊にクラスチェンジ後、精霊になる訳ですね)

(概ね、その様なものだろう)

この青年は、わざわざ解りにくい表現に言い直すのが癖なのか? まあ、いいのだが。

(精霊かあ。 精霊になって、この世界を見て周るのもいいかなあ)

(残念ながら、それは出来ない)

(え?)

(何者でもない、と言っただであらう。精霊となれば、自我など無いただ存在するだけのモノとなるだらう)

(うう。それは嫌だなあ。他人に迷惑を掛けずに済みそうなのはいいけど)

なんともお人好しな青年だ。

どうにかしてやりたいものだが・・・。

第一話 【異世界召喚】 side・青年

うん。参った。

精霊とかカツコいいかも、と思ったら、自我も無いモノになってしまうとは……。

なんか参ってばっかりだ。

それはそれとして仕方ないかもしれないけど、心残りも有るんだ。

（あおう、神様）

（うむ？ どうした？）

（その女の子を助ける事は出来ませんか？）

神様と話している間も、ずっと震えている女の子が目の前に居て、気になっていたんだよね。

此岸と彼岸では時間経過が違うのか、騎士団全滅寸前の絶体絶命フラグ状態から、それほど時間は経っていないっぽい。

それでも、遠くない未来に女の子が殺されるのは、確実なんじゃないかと思う。

それは、なんか嫌だ。

（ふむ。その娘が、汝を喚び出した所為で、汝が死ぬ事になったとしてもか？）

（あ、やっぱり。そうなんじゃないかと思ってました）

（それでも助けたいと申すか）

（それでも、です）

全然腹が立たないと言ったら、嘘になるけど。

それでも、助けたい。

自分が不甲斐なかつた所為で死なせてしまつのが嫌とか、人が死ぬのを見たくないとか、イロイロ理由はあるけど、後付けなんだよね。やっぱり、可愛い女の子は助けたいよね。

男だったらさ。
いやあ、ぶっちゃけ、顔面が不自由な女の子だったら、・・・ゲフンゲフン。

それはさておき。

(助けられませんか?)

(ううむ・・・)

ピカピカ光るモノなので顔とか無いけど、なんとなく顔をしが顰めたように感じた。

(なにか問題でも?)

(ううむ。汝に伝えて良い迷うのだが・・・。あの娘の心根は、余り良いとは言えぬ)

(あゝ。それはそうっぽいですね)

だって、目の前で死んだ人に対して、『もうコイツ最悪マジサイテー！』とか言っちゃうくらいだからなあ。

見た目、清楚なお嬢様風なのに、すごいギャップ。

喚よび出されて、なんかヤバい感じがしたんで、とっさに庇ったら即死だもんなあ。

たぶん、庇われた事も気が付いて無いんだろうなあ。

やっぱり俺みたいになヲタが、キャラの違う事やっちゃ死亡フラグだよな。

これで復活して、命の恩人フラグ回収出来たら良かったんだけど。現実には甘くありませんでした。終了。

凹むわ。

orz こんな感じで。

でもまあ、それとこれとは話は別だよな。

やっぱり、助けられるものなら、助けたい。

(どうしても助けたいと言つのならば、方法も有るには有る)

第二話 【勇者復活】 side・神様

なんとまあ、お人好しな青年だろうか。
あの身勝手な少女の事を理解した上で、なお助けたいと言う。
ならば、出来うる限りの事をやらねばならぬ。

- (どうしても助けたいと言うのならば、方法も有るには有る)
- (有るんですか?!)
- (うむ。ただし、幾つか条件が有るのだ)
- (条件・・・ですか)

我の『条件』という言葉聞いて、青年は緊張した様子になった。

- (まず、汝の事だが、汝の靈魂を『魂』と『魄』に分けねばならぬ)
- (『魂』と『魄』ですか)
- (うむ。『魂』は汝の本質。核の様なモノで『存在そのもの』と言
って良い)
- (では、『魄』は?)
- (『魄』は、言わば汝の個性とでも言えば良いか。汝が人生で積み
重ねた経験や功德罪業、そういったモノだ)
- (うーん。OSとソフトみたいなモノかなあ? それかゲームソフ
トとレベル上げたキャラデータ?)
- (・・・相変わらず良く判らぬが、それで良い)

青年は、首を傾げてフムフムと頷いた。

とりあえず判れば良いが、いちいち判り難く言い直すのは、どうに
かならないものだろうか

- (次に、汝の『魄』と肉体を我に捧げて貰わねばならぬ)

(捧げる・・・?)

(汝の肉体に我が宿る事によって、この世界に存在する為の依り代を得る。『魄』を継承する事によって、此岸に干渉する権利を得るのだ)

(それだけで神様は力を使えるようになるんですか?!)

(それだけ、と軽く言える事ではないぞ)

(と言いますと?)

(汝は『個』を保つ事が出来ずに消滅する)

(え?)

(肉体を得ても全ての力が使えるわけではない。加えて、我も『死』の可能性を得ることになる)

(・・・『それだけ』なんて軽く言っていていい事じゃないですね)

(しかし、そうする事によって、我も少くない力が使えるようになる。汝の『魂』を生まれた世界へ送る事も可能だ)

(ええ? マジですか?)

(うむ。本当だ。生まれ^{マシ}た世界で転生する事になるだろう)

(・・・ここで生き返るのは、無理なんですよ?)

(それは無理だ。力を使えるようになるには、汝の『魄』と肉体が必要だからの)

(ですよ。言ってみただけです。すみません)

青年の方の条件は以上だが、もう一つの条件が厳しいかもしれぬ。

(もう一つ、条件がある)

(なんででしょうか?)

(これは汝ではなく、あの娘にして貰わねばならぬ事だ)

(あの女の子に?)

(うむ。我が此処に在るのは、汝が呼び、あの娘が引き寄せた為である)

(そうだったんですか)

(それ故、汝の肉体に宿るに当たり、あの娘の協力が必要なのだ)

(どんな協力が?)

(口寄せで、我を汝の肉体に吹き込んで貰わねばならぬ)

(え? それって・・・)

(所謂、いわゆる接吻だの)

(ええええええええええ?!)

第二話 【勇者復活】 side・青年

あ……ありのまま 今 起こった事を話すぜ！

この状況を何とかするには美少女とキスする必要があるらしい。
何を言っているのか わからねーと思うが（以下略

とかJ JOってる場合じゃねEEEEEE

（ええええええええええええ？！）

って、良く考えたら、俺死んでるし。

全然嬉しくな……くもないんだが、ちょっと嬉しいと思ってしま
うのが、情けないやら哀しいやら。

ファーストキスが幼稚園の時で、それ以来セカンドとかナッシング。
しかも、生前なら絶対チャンスが無いような美少女とキスとか、喜
んで何が悪い！

俺、死体だけだな！

……って、死体にキスとかハードル高すぎるんじゃないかと。

（俺はいいんですけど、あのコは無理なんじゃないでしょうか）

（無理でもやって貰わねばならぬ）

（こう言っただけですが、今どきの女の子……じゃなくても死体
にキスとかハードル高すぎですよ！）

（やらねば、あの娘も死ぬだけだ）

うーん。そうなんだよなあ。

だからって、出来るもんかなあ。

俺って、ブサメンじゃないと思うけど、喜んでキスして貰えるほど

のイケメンでもないしなあ。

てか、どうやってそれをあの口に伝えるんだ？

(出来る出来ないは別にして、どうやってそれを伝えるんですか？)

(心を読む程度の事は今のままでも出来るのだが、こちらの意思を伝えるには、汝の『魄』が必要となる)

(話をするとところから、俺の『魄』は必要なんですか？)

(我とあの娘には『縁』が存在しないのでな。汝は靈魂となり彼岸^{ちから}に来たので接触出来たが、そもそも我にはこの世界に干涉する力はないのだ)

(何かするにしても、まずは俺の『魄』が必要なんですね)

(汝は、この世界に召喚され此岸に存在し、あの娘に喚び出され『縁』が出来た)

(一瞬で終了でしたが・・・)

苦笑するしかない感じの『縁』だけど。

偶然で喚び出されても、『縁』は『縁』か。

登場即退場でも確かに存在したし、死体だけど今も存在してる。

(我は只の通り過がりの神にすぎぬ。この世界に干涉する権利を持つておるのは、汝なのだ)

(権利、ですか)

(そう。権利だ。義務ではない。このまま成り行きを黙って見ておっても、誰も責めはせん。無論、我もな)

(ここには俺と神様しか居ませんしね)

神様は俺を責めないと言ってくれた。

でも、『誰も責めない』って訳にはいかない。
何故ならば。

- (俺が、俺を責めます)
(今の状況は、汝に一片の責任も無いのだぞ?)
(そうかもしれない)
(むしろ、汝は被害者だ)
(ですよね)
(それでもか?)
(それでも、です)

俺だって男だもんなあ。
ヲタだってカツコつきたい。

女の子見捨てて地縛霊状態を維持とか、カツコ悪過ぎだよな。
地縛霊つてだけでもアレなのに、卑怯者までトッピングされたら情
け無いにもほどがある。

それに良く考えると、この状況で女の子死んだら、ここで地縛霊だ
よね。

精霊にクラスチェンジするまで顔つき合わせて地縛霊とか気不味過
ぎ。

そう考えると、失敗したって消滅して会わないで済むだけマシかも
しない。

- (本当に、良いのか?)
(いいです。失敗して消滅した時は、運が無かったって諦めます)
(何というか・・・汝は本当にお人好しだな)
(そうかもしれない。けど、結構自分勝手ですよ? 後の事は、
全部神様に丸投げだし)
(ははは。言われてみれば、そうなのう)
(アハハ。そうですよ)

神様と二人で、ひとしきり笑った。

(では、始めるぞ?)

(お願いします)

(本当に良いのだな?)

(本当に、お願いします)

(本当の本当に、)

(もう本当に良いんで、やっちゃってください。あんまり長引くと怖くなります)

(了承^{わか}った)

神様の気配が、ズンと強くなると、意識が次第にボンヤリと薄らいでくる。

しばらくすると、神様の声が遠くから聞こえてきた。

(汝は真^{まこと}の勇者なり。汝の魂は清く正しい。我は力の限りをもって、汝の魂を祝福する。汝の来世に幸^{さいち}あれ)

神様ありがとうございました。

さよなら。

第二話 【勇者復活】 side・神様in青年『魄』

青年の靈魂の分離は成功した。

人型の『魄』から、薄く複雑に色付いた透明なモノが剥離した。無垢というには複雑な色彩の、だからこそ美しい、青年らしい『魄』だった。

そして、残された青年の『魄』に重なり、『ひとつに』と思っねがた。

+++++

俺は、彼の『魂』を包み込み、開放された僅かな”力”を使って可能な限りの『保護』を施した。

ほんの気休めにしかならないかもしれないが、『魂』が消滅してしまふまでの時間を少しでも稼ぐ助けにはなるだろう。

彼岸から見れば、此岸の時間は、さっき少女と接続した瞬間から止まチャネルっているが、再び接続した瞬間から時間は流れ始める。

彼の肉体も死の直後で止まっているが、俺が入って蘇生するのが間に合わなければ、全てが水の泡だ。

出来るだけ迅速に、『やるべきこと』をやらねばならない。正確には、『やらせるべきこと』だが。

あの醜悪な思考に接続するのは気が重い、仕方がない。

彼の願いを叶える為にも、最大限の努力をしよう。
というわけで、再接続。

(ーークツソ)。恋くらいしたかったぞ。コンチクショ)

相変わらず胸糞悪くなる思考だな。

反吐へが出る。

彼の願いでなければ、助ける気などカケラも起きないな。
でもまあ、彼の願いだ。

俺の『やるべきこと』をやるう。

(ふむ。それがお前の願いか?)

(え?なに?今の声)

(俺か?俺は神様だよ)

(やべえ。ワタシ、テンパって幻聴とか聞こえてるよ)

(何故、幻聴だと思う?お前は巫女だろう?)

(いや、ワタシってばナンチャッテエゼ似非巫女だし、神様とチャネリング接続と
できないし、って何ワタシ幻聴と会話してんの)

おやまあ。彼を召喚して死に至らしめ、俺を引つ張り出したという
事を自覚していないのか。

自分の都合で一人の人間を死なせておいて、何も感じていないとい
うのは、怒りを通り越して、いつそ笑えてくるな。

(フハハ。面白いな、お前)

(ほっとけ!コッチはマジピンチなんだから、幻聴の相手してるヒ
マなんか無いっつーの)

(助けてやるうか?)

(え?)

(助けてやるうか?と言った)

(え? マジで?!)

ああ。マジだ。

彼の願いだ。

どんな手段を使っても助かってもらうぞ。

勿論、もちろん『やるべきこと』をやってもらうがな。

- (その為に、やってもらいたい事がある)
(何？ナニ？)
(なあに。簡単な事さ)
(痛いのか、キツイのはイヤよ)

自分の命が掛かっているというのに、気楽なものだな。
周りで命懸けで戦っている騎士達の事など、考えてもいないのか。
彼らは、今も苦痛と恐怖に耐え、お前を守って戦っているのに。

- (本気で助かりたいのかい？)
(本気ホンキだよ！)
(そうは聞こえないなあ)
(イヤ。ホント。助けてほしいデス！)
(なら『何でもする』か？)
(『何でもする』よ！)
(『約束する』か？)
(『約束する』よ！)

契約成立。

勢いで言った事だろうが、『言質』げんちは取った。
気が付いても、もう遅い。

簡易な”ことだま言霊縛り“だが、今の俺でも使えるレベルの“力”だ。
まあ、気が付いてもいないようだが。

できればコレを使わずに、自分の意思でやってもらいたいんだがな。

- (やってもらいたい事は簡単だよ)
(えっと、どうすればいいの？)
(目の前に、青年が倒れているだろう？)
(ウン。役立たずのヒョロ男ね)

本当にム力つく女だ。

彼の願いでなかったら、助ける価値など糞ほども無いのに。
むしろ糞の方が肥料になるだけマシだ。

しかし、彼の『魂』を送る為にも、”力”は必要だ。
我慢しよう。

(その青年の肉体にキスをして、息を吹き込むだけだよ)

(うげ)。ナニソレ。マジありえね。できるわけないじゃん！)

(痛くもキツくもない、簡単な事だと思っけどな)

(イタイのはアಂತの頭だっつーの。死体にキスとかヘンタイじゃないの?!キモツ!マジ死ね!)

むしろお前が死ね。クソ女。

と言いたい所だが、まだ死んでもらっては困る。

これだけクスだと、どんな手段を使っても心が痛まなくて助かるな。

(『その青年と口付けを交わし、息を吹き込め』)

(だから、そんなキモいことするわけないじゃん!・・・って、なにこれ?!)

少女の身体が、本人の意思に反して動き、青年の死体に近づく。
うつ伏せに倒れている青年の肉体を起こして、口付けた。

第二話 【勇者復活】 side・巫女

自称『神様』のヘンタイな幻聴(?)が、重く頭に響く声で、言った。

(『その青年と口付けを交わし、息を吹き込め』)
(だから、そんなキモいことするわけないじゃん!・・・って、なにこれ?!)

ワタシはイヤなのに、勝手に身体が動いている。

役立たずのヒョロ男の死体に近付いていく。

うぎゃー!。なんかプスプス煙が!

なんか焦げてるって!

うとうとう。吐きそう。

うつ伏せに倒れてるヒョロ男の肩を持って、上向きにする。

あら。焦げてたのは、服だけだった。

顔とかはキレイなままだ。

祭壇の石で、ちよっと擦り傷あるけど。

うーん。イケメンじゃないけど、優しそうな男の人だ。

大学生くらいかな?

って、顔近い!ちーかーい!

うとうとう。実は、ファーストキスなのに。

・・・あ。いま。なんか、身体を通って、この人の中に入っていった感じ。

だめだ。ちからがぬけ・・・る・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6303z/>

神様HELP!! or HELL?

2011年12月23日03時55分発行